【第４次　１１時間目／全１４時間】　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　担当　　石塚　智久

（１）本時のねらい

　佐野藤三郎の働きについて，佐野藤三郎が亀田郷で培った技術や経験を生かして中国三江平原開発に協力したことを調べることを通して，新潟と中国の国際交流が深まったことが分かる。

（２）本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学習活動 | 教師の働き掛けと予想される児童の反応 | 資料と留意点 |
| １　写真と地図から，三江平原が亀田郷と同じ荒地であったことを読み取る。  　（５分） | Ｔ１　この写真はどこの写真でしょうか。  Ｃ１　佐野さんが写っている。亀田郷かな。  Ｃ２　曲がりくねった大きな川だ。信濃川や阿賀野川ではなさそうだけど…。  Ｔ２　中国の三江平原というところの写真です。地図帳で確かめて見ましょう。亀田郷と似ていることはありますか？  Ｃ３　まわりが川に囲まれている。  Ｃ４　亀田郷みたいに，水で苦しんでいる場所なのかな。  Ｔ３　三江平原は亀田郷と同じで，周りを川に囲まれた土地で，洪水に苦しんでいたそうです。 | 〇写真「三江平原の写真」を提示する。芦沼と似ているという声を引き出す。  ○地図帳で川に囲まれた地形であることに気付かせる。「北大荒」と呼ばれていたことを知らせる。 |
| ２　DVDを視聴し，佐野が「世界で果たす新潟の役割」と考えて三江平原の開発に尽力したことを知り，学習課題を設定する。  （１０分） | Ｔ４　佐野藤三郎さんは，中国から，三江平原を農業ができる豊かな土地にするための開発に協力してほしいと頼まれました。その時の様子をＤＶＤで見てみましょう。  Ｃ５　わざわざ亀田郷に頼んだのは，なぜだろう。  Ｃ６　三江平原が亀田郷に似ていたから頼まれたのかな。  Ｔ５　ＤＶＤの中で，佐野さんは中国に協力することを「新潟の果たす役割」と考えたと言っていました。「新潟の果たす役割」とは一体どういうことでしょう。   |  | | --- | | 佐野藤三郎は，なぜ三江平原の開発に協力することが「新潟の果たす役割」だと考えたのだろう？ | | ○資料「佐野藤三郎年表」を配付する。4次を通して活用する。  ○「映像⑫中国三江平原の開発」を視聴させる。当時の日中関係が国交回復後間もなく十分な交流がないことを知らせる。 |
| ３　昭和53年の新聞記事を調べ，亀田郷土地改良区が中国の農地開発に協力した理由を考える。  　　　　（２０分） | Ｃ７　亀田郷の経験を中国に伝えることが「新潟の役割」かな。  Ｃ８　あし沼だったのに米が取れるようになったから，そのやり方を役に立てることが「新潟の役割」かな。  Ｔ６　昭和５３年の新聞では，佐野さんたちが三江平原開発に協力することが報道されています。佐野さんたちのことを，どのように伝えていますか。  Ｃ９　「買われた水郷農民の闘魂」と書いてある。亀田郷のがんばりを認めて頼んできたのだ。中国の期待に応えることが新潟の役割なのでは。  Ｃ10　「荒野に体験生かす　最新の稲作技術を伝授」と書いてある。あし沼を開発した亀田郷の体験を他の国にも生かすことが役割だと考えたんだと思う。  Ｃ11　「日本と中国の歴史に新しい一コマ」と書いてある。中国を助けて仲良くなることが新潟の役割だと考えた。 | ○子どもの予想を十分引き出したうえで，資料「昭和５３年の新潟日報」を配付する。  ○古い記事なので，児童に分かりやすく加工して提示する。難解な言葉は解説を加える。  ○グループ活動を適宜取り入れ，相談しながら読み取らせる。 |
| ４　調べたことをまとめ，亀田郷の技術が高く評価されて中国との国際交流につながったことをまとめる。  　　　　　(１０分） | Ｔ７ 「新潟の果たす役割」の意味をまとめましょう。   |  | | --- | | 佐野藤三郎は，あし沼から豊かな土地に変わった亀田郷ならではの技術と経験を伝えることを新潟の役割と考えて，中国の力になろうとした。（国際交流） |   Ｔ８ 　中国のジャムス大学では，佐野さんたちの三江平原での働きを伝えるための資料室が作られています。  Ｃ12　中国でも佐野さんたちの働きは感謝されているんだ。  Ｃ13　佐野さんをきっかけに新潟と中国の関係が深まった。  Ｔ９　学習の振り返りをノートに書きましょう。 | ○写真「ジャムス大学新潟館」を提示し，中国でも佐野の功績が紹介されていることを関連付けて考えさせる。 |